

Ⅲ 住宅の比較・分布・推移—調査結果からの考察—

1) 比較

こうして米子市内の市営住宅をすべて見て周ったが、米子市の市営住宅は大きく3つのタイプに分けられると言える。1つ目は駅前などの土地区画整理事業による改良・再開発住宅である。2つ目は市営のもの単独や市営と県営のものが数棟で建っている、比較的小規模のものである。3つ目は郊外に多い大規模な総合住宅である。これらをそれぞれの代表的な住宅を取り挙げて、空中写真を使ってさらに詳しく見ていく。

(a) 改良・再開発住宅（東町）

1つ目のタイプが、駅前などの土地区画整理事業による改良・再開発住宅である。万能町や東町、大工町住宅がこれにあたる。1階に店舗を持つ住宅があるのも特徴である。初め、このタイプの住宅3つすべてが中層で建設された。しかし東町住宅は、その後のさらなる区画整理事業により移転・建替えされるとときに高層になった。この東町住宅を空中写真で見ていく。

まず、(写真15)が最も古い1962年の空中写真である。東町住宅は1975年に建設されているので、当然写っていないが、白線の枠内が後に旧東町住宅が建てられる場所である。その周りを通る道路はこの時期に建設されたようである。また、小さな建物がたくさん密集して建っていて、米子駅前整理事業が行われる前の様子がよくわかる。次の(写真16)は1976年のもので、この地域の区画整理が終わり、旧東町住宅が建てられて間もない頃である。枠内が旧東町住宅であるが、周りに小さな建物が多いためよく目立っている。周りは62年の写真と比べて、整理されているのがわかる。最も新しい

(写真17)が1996年のものである。右側の白枠の中の建物が取り壊される前の旧東町住宅で、左側の白枠の中が、写真には写っていないが、現在新しい高層の東町住宅が建っている場所である。そして、黒枠は新しい区画整理事業で現在は道路になっているところであるが、旧東町住宅がその中に入っているのがよくわかる。このため、東町住宅はこのあと1997年に現在の場所に建替え、移転が行われた。こうして見てみると、この地域では何回かの区画整理・再開発が行われたことがよくわかる。

(b) 小規模住宅（富士見町・博労町）

2つ目のタイプである、小規模で市営のもの単独や市営と県営のものが数棟で建っている住宅の代表的なところとして富士見町住宅、博労町住宅が挙げられる。ほかには、義方町、三本松住宅がこれにあたり、比較的小規模でアパートのようなものが多い。さらにこれらはJR境線の線路沿いに多いのも特徴であり、このあたりが比較的古くからの住宅地であったと思われる。また、これらより少し大規模ではあるが後に挙げる総合住宅ではないものとして、加茂住宅や陰田町住宅、上福原住宅、西福原住宅、皆生住宅がある。加茂住宅は両三柳住宅に隣接しており、陰田町や皆生、福原の地域には県営の団地もある。ほかに市営単独の住宅としては五千石住宅があるが、ここは大規模住宅として建設されているのでほかの住宅とは少し異なる。これら、このタイプの住宅は早い時期に建てられたものが多いため、最も古い富士見町住宅は建替えられており、そのほかは順次建替え予定となっている。

この富士見町住宅と博労町住宅のある一体の空中写真を見てみる。写真の真ん中を通っているのがJR境線であり、その右側の枠内が博労町住宅で、左側が富士見町住宅である。さきにも述べたが、周



写真 15 東町住宅・1962年

(国土地理院 62-2, C14B-9)



写真 16 東町住宅・1976年

(国土地理院 76-1, C22C-29)



写真 17 東町住宅・1996年

(国土地理院 96-1, C8-36)



写真 18 富士見町・博労町住宅・1976年

(国土地理院 76-1, C21-39)

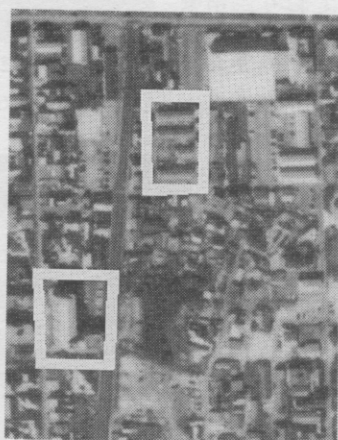


写真 19 富士見町・博労町住宅・1996年

(国土地理院 96-1, C8-36)